

新教育課程

内容解説資料
886363

2022 年度～

高等学校 学習指導要領

ポイント解説

外国語

CONTENTS

高等学校学習指導要領「総則」の改訂の要点	2
高等学校学習指導要領「外国語」の改訂の要点	4
高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」	
英語コミュニケーションⅠ	5
英語コミュニケーションⅡ	11
英語コミュニケーションⅢ	14
論理・表現Ⅰ	17
論理・表現Ⅱ	20
論理・表現Ⅲ	22
各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い	24
カリキュラムモデル案	26



高等学校学習指導要領「総則」の改訂の要点

【総則の主な改訂ポイント】

1. 教育基本法の理念と教育課程の役割等

- 前文に、「社会に開かれた教育課程」実現に向け、広く社会で共有されることが望まれるということを明記。

2. 高等学校における学びの質の改善

- 生徒の資質・能力を育成するため、**主体的・対話的で深い学び**の視点から授業改善に配慮することを明記。
- 教育活動の質の改善を図るため、各学校において**カリキュラム・マネジメント**に努めることを明記。

3. 学校段階等間や教科等間の接続

- 生徒に求められる資質・能力がバランスよく育まれるよう、卒業後の進路を含む**学校段階等間の接続**を明記。
- 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習基盤となる資質・能力等の育成を図ることを明記。
- 教科等の特性に応じて、言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動等の充実を図ることを明記。

4. 生徒の発達支援、家庭や地域との連携・協働等

- 生徒の発達支援の視点から、**ホームルーム経営**や**生徒指導**、**キャリア教育の充実**と**教育課程の関係**を明記。
- 部活動**について、教育課程との関連を図るよう留意、関係機関と連携し持続可能な運営体制の確保を明記。
- 教育課程の実施に当たり、**家庭や地域と連携し、協働**していくことを明記。

5. 道德教育の充実

- 校長の方針の下、**道德教育推進教師**を中心に、全ての教師が協力し**道德教育**を展開することを新たに明記。
- 「**公共**」「**倫理**」「**特別活動**」が、人間としての在り方生き方に関する中核的指導の場面であることを明記。

(1)科目構成と必修科目

- 卒業までに履修させる単位数は、現行どおり**74単位以上**。なお、1単位時間を50分、35単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする。
- 必修科目は、国語で「**現代の国語**」及び「**言語文化**」、地理歴史で「**地理総合**」及び「**歴史総合**」、公民で「**公共**」、外国語で「**英語コミュニケーションⅠ**」、情報で「**情報Ⅰ**」に変更された。「総合的な学習の時間」が「**総合的な探究の時間**」に変更された。
- 必修科目の単位数は標準単位数を下らないとするが、「数学Ⅰ」と「英語コミュニケーションⅠ」で必要な場合に2単位とできる。他の必修科目は2単位のものを除き、単位数を減じることができる。「**総合的な探究の時間**」も必要な場合、**2単位**とできる。
- 新教科「**理数科**」（科目「**理数探究基礎**」「**理数探究**」）が設けられ、その履修により「総合的な探究の時間」と同様の成果が期待できる場合、置き換えが可能。
- 各教科・科目の標準単位数はp3の下図のとおりであるが、生徒の実態を考慮し、特に必要のある場合には、**単位数を増加**して配当することができる。
- 生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、「**学校設定教科**」「**学校設定科目**」を設けることができる。なお、修得単位数は合わせて20単位まで。
- 専門学科**では、専門教科・科目の履修単位数が25単位を下ってはならない。専門学科・科目の履修によって、必修教科・科目の履修と同じ成果を期待できる場合、置き換えることができる。また課題研究等の履修に

より「総合的な探究の時間」と同様の成果が期待できる場合も置き換えることができる。

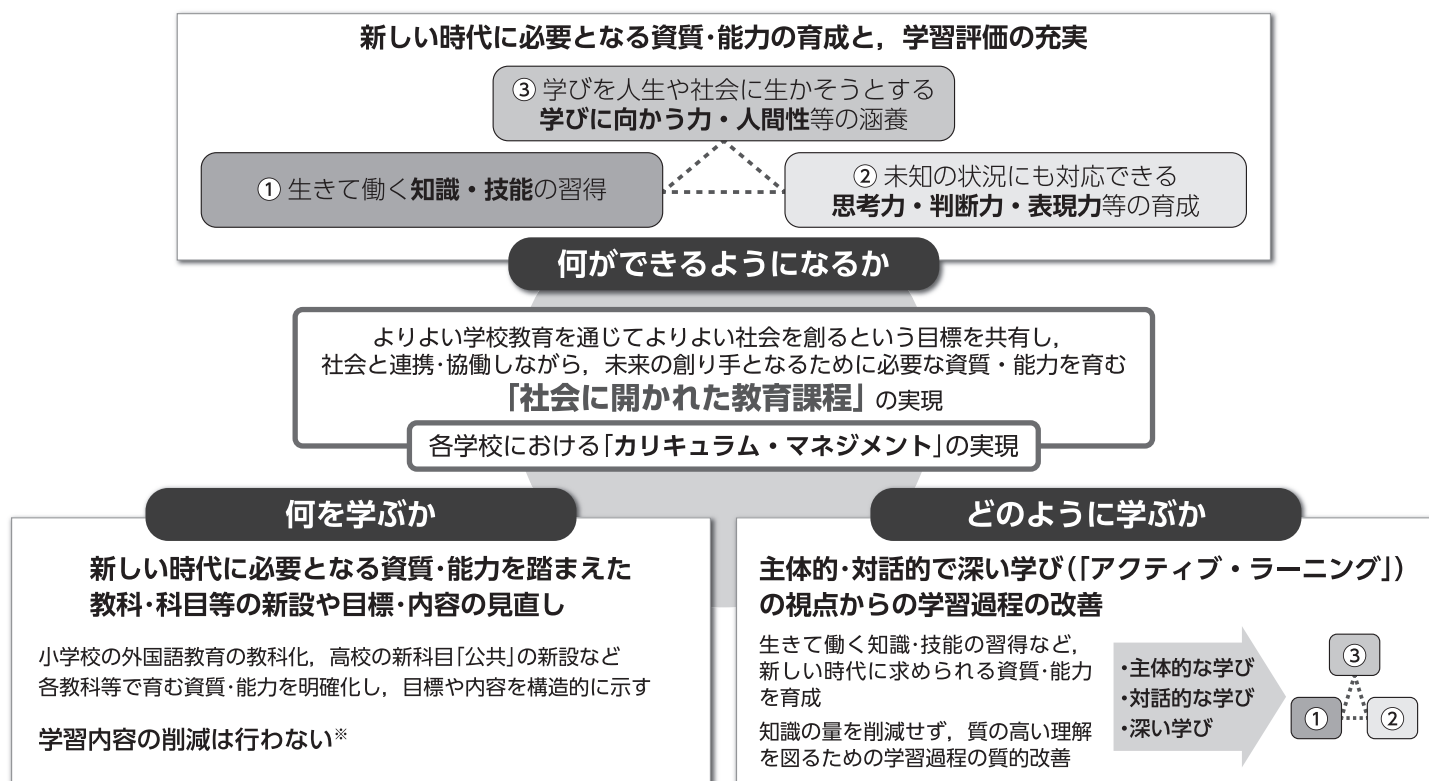
(2)各教科・科目の授業時数

- 全日制課程では年間35週の授業を行うことを標準とするが、必要な場合は特定の学期又は特定の期間(夏季・冬季等の休業期等)に授業を行うことができる。
- 全日制課程の週当たりの授業時数は**30単位時間を標準**とするが、**必要な場合に増加**することができる。
- 1単位時間は各学校が適切に定める。10分間程度の短時間の指導も一定要件で授業時数に算入できる。
- 「総合的な探究の時間」の活動が特別活動の学校行事と同様の成果が期待できる場合、置き換えられる。

(3)各教科・科目の内容の取扱い

- 各科目等に示す「**内容の取扱い**」で、内容の範囲や程度等を示す事項は、必要な場合にはこの事項に関わらず指導できるが、科目等の示す目標・内容の趣旨の逸脱や、生徒への負荷荷重になってはならない。
- 各科目等の「**内容**」に示す項目の順序は、特に「**内容の取扱い**」等で示す場合を除き、指導の順序を示すものでないので、学校においてその取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

学習指導要領改訂の方向性



※高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

（出典：文部科学省資料）

高等学校の教科・科目構成

国語科

論理国語 (4)

文学国語 (4)

国語表現 (4)

古典探究 (4)

現代の国語 (2)

言語文化 (2)

外国語科

英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ 各 (4)

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 各 (2)

英語コミュニケーションⅠ (3)

地理歴史科

地理探究 (3)

日本史探究 (3)

世界史探究 (3)

地理総合 (2)

歴史総合 (2)

公民科

倫理 (2)

政治・経済 (2)

公共 (2)

家庭科

家庭基礎 (2)

家庭総合 (4)

情報科

情報Ⅱ (2)

情報Ⅰ (2)

理数科

理数探究 (2～5)

理数探究基礎 (1)

保健体育科

体育 (7～8)

保健 (2)

総合的な探究の時間

総合的な探究の時間 (3～6)

芸術は音楽Ⅰ～Ⅲ、美術Ⅰ～Ⅲ、
工芸Ⅰ～Ⅲ、書道Ⅰ～Ⅲがあり、
各Ⅰが選択必修。(各2)

数学科

数学Ⅲ (3)

数学C (2)

数学Ⅱ (4)

数学B (2)

数学Ⅰ (3)

数学A (2)

理科

科学と人間生活 (2)

物理基礎 (2)

化学基礎 (2)

生物基礎 (2)

地学基礎 (2)

物理 (4)

化学 (4)

生物 (4)

地学 (4)

※「科学と人間生活」を含む 2 科目、又は基礎を付した科目を 3 科目が必修。

…共通必修

…選択必修

※同教科で下層にある科目が基礎的科目。

※カッコ内の数字は標準単位数。

※「科学と人間生活」を含む2科目、又は基礎を付した科目を3科目が必修。

（文部科学省資料を基に作成）

高等学校学習指導要領「外国語」の改訂の要点

【改訂のポイント】

- 国際的な基準(CEFR)を参考に、小・中・高等学校で一貫した、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの5つの領域別の目標を設定。
- 中学校における学習を踏まえた上で、言語活動を通して5つの領域を総合的に扱うことを一層重視する必修科目(英語コミュニケーションⅠ)を設定。
- 話すこと、書くことを中心とした発信力を強化するため、統合的な言語活動を通してスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを扱う選択科目(論理・表現)を設定。
- 外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実。

(1)科目構成と必修科目

改 訂		
科 目	標準 単位数	必修科目
英語コミュニケーションⅠ	3	○2単位まで減可
英語コミュニケーションⅡ	4	
英語コミュニケーションⅢ	4	
論理・表現Ⅰ	2	
論理・表現Ⅱ	2	
論理・表現Ⅲ	2	



現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目
コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可
コミュニケーション英語Ⅰ	3	
コミュニケーション英語Ⅱ	4	
コミュニケーション英語Ⅲ	4	
英語表現Ⅰ	2	
英語表現Ⅱ	4	
英語会話	2	

(2)各科目の学習内容・指導の改善・充実

【英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ及びⅢ】

- 聞いたり読んだりしたことを活用して、話したり書いたりするなどの統合的な言語活動を通して、5つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目として創設。
- 英語コミュニケーションⅠにおいては400～600語の新語を、Ⅱ及びⅢにおいてはそれぞれ700～950語の新語を指導。
- 現行課程のコミュニケーション英語基礎の内容は英語コミュニケーションⅠに含め、中学校の学び直しも行う。

【論理・表現Ⅰ、Ⅱ及びⅢ】

- スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して、話すことと書くことを中心とした発信力を強化する科目として創設。

(3)言語活動の充実

- ・対話的な言語活動を重視する観点から、話すこと[やり取り]の領域を設定。
- ・外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの言語活動を充実。

(4)活用の重視

- ・文法事項の指導については、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう、文法などの言語材料を言語活動と関連付けて、実際のコミュニケーションにおいて効果的に活用できる技能を身に付けることを重視。



英語コミュニケーションⅠ

3単位

目 標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域(以下この節において「五つの領域」という。)別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

ポイント解説	留意点
内 容 〔知識及び技能〕 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 ア 音声 ㍑ 語や句、文における強勢 ㍒ 文におけるイントネーション ㍓ 文における区切り 【解説】 音声においては、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手の意図などを的確に理解するために、目的や場面、状況に応じて、適切な強勢やイントネーション、区切りを用いることができるよう指導することが求められる。 イ 句読法 ㍑ コンマ ㍒ コロン、セミコロン ㍓ ダッシュ 【解説】 今回の改訂では言語材料に新たに「句読法」を加え、特に「読むこと」や「書くこと」における指導の充実を図った。多様な英文に触れる中で理解を深めさせ、生徒がより表現力豊かな英文を書けるよう、句読法にも着目した指導を行い、情報や考えなどを明確に伝える技能を身に付けさせるようにする。 ウ 語、連語及び慣用表現 ㍑ 小学校及び中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語 ㍒ 連語 ㍓ 慣用表現 【解説】 新語の数については「400～600語程度」としており、400語は下限であるが、600語は上限とするという趣旨ではなく、目安である。また、聞いたり読んだりすることで意味を理解できるようになる語彙(受容語彙)と、話したり書いたりして表現できるようになる語彙(発信語彙)とがあり、「400～600語程度」の全てを発信語彙とすることが求められているわけではない。 「連語」とは、二つ以上の語が結び付いて、あるまとまった意味を表すもの、「慣用表現」とは、ある特定の場面で用いる定型表現を指している。 エ 文構造及び文法事項 ㍑ 文構造のうち、活用頻度の高いもの ㍒ 文法事項 a 不定詞の用法 b 関係代名詞の用法 c 関係副詞の用法 d 接続詞の用法 e 助動詞の用法 f 前置詞の用法	言語材料として、ア～エの四つが示されている。それらを単に知識として理解させるだけではなく、その知識を実際のコミュニケーションに活用できる技能が身に付くよう指導する必要がある。 「英語コミュニケーションⅠ」で扱う単語数は「小学校で学習した語600～700語程度＋中学校で学習した語1,600～1,800語程度＋新語400～600語程度＝2,600～3,100語程度」である。活用形、単数形・複数形、比較変化(規則変化)は辞書の見出し語を代表させて1語とみなすことができる。 中学校では、主に「原形不定詞を用いる文構造」,「現在完了進行形」,「仮定法のうち基本的なもの」が新たに加えられた。 ㍒の全ての事項を取り扱う。

g 動詞の時制及び相など

h 仮定法

【解説】 文構造は、用語や用法の説明は必要最小限とし、あくまでも言語活動と効果的に関連付けて指導することが重要である。

文法事項については、今回の改訂で新たに「接続詞の用法」及び「前置詞の用法」を扱い、「代名詞のうち、it が名詞用法の句及び節を指すもの」及び「分詞構文」については必要に応じて扱うこととする。

a の不定詞は、中学校では to 不定詞の名詞用法、形容詞用法、副詞用法を指導している。また、文構造として「主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞」の文も扱っている。高等学校では新たに**知覚動詞と共に用いる原形不定詞**を扱う。

b の関係代名詞は、中学校では主格の that, which, who, 目的格の that, which の制限用法を指導している。高等学校では新たに、**先行詞をとらない関係代名詞 what や非制限用法**などを指導する。

c の関係副詞は高等学校の新出事項である。関係副詞及びその先行詞は省略されることが多いことなどにも配慮して指導する。

d の接続詞は、中学校で学習したものを含めて繰り返し扱いながら、接続詞の使い方について理解を深め、**論理的に表現する際に活用**できるように指導する。

e の助動詞は、高等学校では小学校・中学校の学習事項に加えて、必要に応じて、**助動詞の過去形、助動詞を含む受け身、助動詞と完了形を用いた過去に関する推測の表現**なども扱う。

f の前置詞は、高等学校ではより多くの種類の前置詞を扱うほか、「**名詞化した動詞＋前置詞**」や、「**前置詞＋動名詞や関係詞**」、「**動詞＋前置詞**」などの多様な表現を活用することも大切である。

g の動詞の時制及び相などは、中学校では現在形、過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、現在完了進行形、助動詞などを用いた未来表現を指導している。高等学校では、**過去完了形、過去完了進行形**を新たに指導する。

h の仮定法は、今回の改訂により、中学校に新設の文法事項として追加された。高等学校では、中学校で指導された基本的な仮定法を含め、五つの領域別の目標を達成するのに必要とされるものを精選して指導する。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

【解説】 英語を用いた言語活動を通して身に付けることとして、ア～ウの3点が挙げられている。アは、受容面と発信面について、聞いたり読んだりした情報の中から「概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること」である。イは、聞いたり読んだりする受容面での活動を受け、「**話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること**」である。ウは、情報や考えを一方向的に伝えるのではなく、「**情報や自分自身の考えなど**

中学校学習指導要領解説では、原形不定詞の用法として、I helped my father wash the car. といった例文が示されている。

中学校学習指導要領解説では、If I were you, ... や I wish ... といった例文が示されている。

(2)に示す「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、(1)の「知識及び技能」に示す事項を活用して、(3)の五つの領域ごとの「①言語活動に関する事項」に示された言語活動を通して指導することや、「②言語の働きに関する事項」を適切に取り上げて指導が行われる必要がある。

を伝え合うこと」であり、互いの理解を深められるようにしていくことが重要であることを述べている。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち、中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

【解説】 中学校の外国語科で提示された言語活動のうち、高等学校の導入段階においても必要なものを繰り返し行い、中学校から高等学校へと学びを接続させる指導を行うことを求めている。

イ 聞くこと

【解説】 「日常的な話題」についての対話や放送、「社会的な話題」についての対話や説明などを聞き取り、内容を把握し、「聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動」が示されている。

本活動における支援としては、話す速度や、文と文とのポーズの長さを調整することや、聞いた後に必要な時間を十分にとること、難しい表現を既習の簡単な表現に言い換えることなどが挙げられている。

ウ 読むこと

【解説】 「日常的な話題」についての電子メールやパンフレットなど、「社会的な話題」についての説明文や論証文などを読み取り、内容を把握し、「読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動」が示されている。

本活動における支援としては、難しい表現を既習の簡単な表現に言い換えることや、生徒の既存の知識や体験などを読む内容と関連付けさせたりすることなどが挙げられている。

エ 話すこと[やり取り]

【解説】 「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合う活動」と「やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。また、「社会的な話題」については、「賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動」と「やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、関連する話題を読んだり聞いたりすることで有用な語彙や文を生徒から引き出したり、提示したりすることや、やり取りを継続させるための表現を示したり、やり取りの具体的なモデルを十分に示すことが挙げられている。

オ 話すこと[発表]

【解説】 「日常的な話題」と「社会的な話題」について、「情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、有用な語彙や表現、発話の仕方などを与えることや、話して伝えるための準備として、伝えたい内容についてブレインストーミングをしたり、内容の順番や展開についてアウトライ

五領域の「目標」のそれぞれに対応した言語活動の例が示された。

「目標」の(1)に対応した言語活動である。

「目標」の(2)に対応した言語活動である。

図表等を含む説明文や論証文を扱い、文章と図表等を関連付けながら情報を読み取る力を育成することも考えられる。

「目標」の(3)に対応した言語活動である。

自然なやり取りにするために、インフォメーション・ギャップがある状況で活動を行うことも重要である。

最初は本文内容のリテリングなどの活動を行って慣れさせ、徐々に自分の意見や理由などを言えるようにするといった、段階的な指導の工夫も必要である。

「目標」の(4)に対応した言語活動である。

発表後は、教師からのフィードバックだけでなく、生徒同士が感想や意見を伝え合うことも効果的である。

ンを作成したり、図表などの視覚的な補助を作成したりするための時間が十分確保されることが挙げられている。

カ 書くこと

【解説】「日常的な話題」と「社会的な話題」について、「情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに**段落を書いて伝える活動**」と「書いた内容を読み合い、**質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動**」が示されている。

本活動における支援としては、活用できる有用な語句や文、生徒が分析したり模範にしたりできるような文章例が豊富に示されることや、書く活動に入る前に内容や構想を膨らませたり、構成を練ったり、アウトラインを書いたりするための時間が十分確保されることが挙げられている。

なお、論理性に注意して段落で書くためには、段落の構成について学ぶ必要がある。小学校や中学校の国語科で文章の構成や展開を指導していることを踏まえて、日本語と英語の段落の相違点や共通点を理解させる必要もある。

② 言語の働きに関する事項

ア 言語の使用場面の例

【解説】言語活動を行う際の参考として、「言語の使用場面」の具体例が示されている。

(ア)では、「職場での活動」が中学校で取り上げられていなかったものである。「地域での活動」は、中学校では「地域の行事」となっており、高等学校では、ボランティア活動、地域人材や地域の外国人との交流活動等、より広範囲にわたる地域での社会活動の場面を扱う。

(イ)はすべて中学校では扱っていないものであり、様々なメディアを通して英語で情報などを得る場面を想定している。

(ウ)では、「電話での応答」は、中学校では「電話での対応」となっており、高等学校では、電話でのコミュニケーションの当事者として電話の目的である用件を果たすための会話を行う場面を想定している。

イ 言語の働きの例

【解説】言語活動を行う際の参考として、「言語の働き」の具体例が示されている。(ア)～(オ)のいずれも中学校でも扱われている項目である。その例の中には中学校と共通するものも多いが、高等学校でより高度な活動をするために新たに取り上げられているものもある。

(ア)では、「言い換える」「話題を発展させる」「話題を変える」が中学校にはなかったものである。より継続的でより深い内容を展開するやり取りなどができるよう指導する。

(イ)では、「共感する」「感謝する」「望む」「驚く」「心配する」が中学校にはなかったものである。日常会話でのやり取りや文章表現などによって、様々な気持ちや感情を互いの立場を尊重しながら伝え合うことができるよう指導する。

(ウ)では、「理由を述べる」「要約する」「訂正する」が中学校にはなかったものである。他者を意識しながら事実や情報をより適切にまた効果的に伝え合うことができるよう指導する。

「目標」の(5)に対応した言語活動である。

ICT 機器などを活用して、多様な文を書く活動を取り入れることも考えられる。

言語の使用場面の例

(ア) 生徒の暮らしに関わる場面

- ・家庭での生活
- ・学校での学習や活動
- ・地域での活動
- ・職場での活動 など

(イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面

- ・本、新聞、雑誌などを読むこと
- ・テレビや映画、動画、ラジオなどを観たり、聞いたりすること
- ・情報通信ネットワークを活用すること など

(ウ) 特有の表現がよく使われる場面

- ・買物
- ・食事
- ・旅行
- ・電話での応答
- ・手紙や電子メールのやり取り など

言語の働きの例

(ア) コミュニケーションを円滑にする

- ・相づちを打つ
- ・聞き直す
- ・繰り返す
- ・言い換える
- ・話題を発展させる
- ・話題を変える など

(イ) 気持ちを伝える

- ・共感する
- ・褒める

(エ)では、「提案する」「主張する」「推論する」が中学校にはなかったものである。適切な表現を選択し、論理の展開を意識しながらまとまりのある考えや意図を伝えられるよう指導する。

(オ)では、「誘う」「許可する」「助言する」「注意をひく」「説得する」が中学校にはなかったものである。適切な表現を選択し、教室内外における身近な場面で相手の行動を促すことができるよう指導する。

- ・謝る ・感謝する
- ・望む ・驚く
- ・心配する など

(ウ) 事実・情報を伝える

- ・説明する ・報告する
- ・描写する ・理由を述べる
- ・要約する ・訂正する など

(エ) 考えや意図を伝える

- ・提案する ・申し出る
- ・賛成する ・反対する
- ・承諾する ・断る
- ・主張する ・推論する
- ・仮定する など

(オ) 相手の行動を促す

- ・質問する ・依頼する
- ・誘う ・許可する
- ・助言する ・命令する
- ・注意をひく ・説得する など

内容の取扱い

- (1) 中学校におけるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、総合的に指導するものとする。
- (2) 中学校における学習との接続のため、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返したり、特にこの科目の学習の初期の段階においては中学校における基礎的な学習内容を整理したりして指導し、定着を図るよう配慮するものとする。

【解説】 中学校での指導同様に、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行い、総合的な英語力の向上を図ることが必要である。



英語コミュニケーションⅡ

4単位

目 標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと【やり取り】

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと【発表】

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

ポイント解説	留意点
内 容 〔知識及び技能〕 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 【解説】 扱う言語材料としては、「英語コミュニケーションⅠ」と同様である。ただし、指導する語は「英語コミュニケーションⅠ」に示す語に700～950語程度の新語を加えた語としている。700語は下限であるが、950語は上限とするという趣旨ではなく、目安である。また、文法事項については、「英語コミュニケーションⅠ」に示されたものの中から、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを取り扱うこととしている。 〔思考力、判断力、表現力等〕 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 【解説】 「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 ア 「英語コミュニケーションⅠ」の(3)の①に示す言語活動のうち、「英語コミュニケーションⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。 【解説】 「英語コミュニケーションⅠ」での学習内容を繰り返し活用することで、定着させることが求められている。 イ 聞くこと 【解説】 「日常的な話題」についての対話やスピーチ、「社会的な話題」についての説明や討論などを聞き取り、内容を「把握する活動」と「聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動」が示されている。 本活動における支援としては、必要に応じて、話す速度や、文と文とのポーズの長さを調整することや、聞いた後に必要な時間を十分にとること、難しい表現を既習の表現に言い換えることなどが挙げられている。支援の程度や方法を工夫しながら、目標に合わせて活動の内容を発展させていくことが必要である。 ウ 読むこと 【解説】 「日常的な話題」についての新聞記事や広告、「社会的な話題」についての論証文や報告文などを読み取り、内容を「把握する活動」と「読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動」が示されている。 本活動における支援としては、必要に応じて、難しい表現を既習の表現に言い換えることや、生徒の既存の知識や体験などを読む内容と関連付けさせたりすることなどが挙げられている。支援の程度や方法を工夫しながら、目標に合わせて活動の内容を発展させていくことが必要である。	「英語コミュニケーションⅡ」で扱う単語数は「英語コミュニケーションⅠに示す語2,600～3,100語程度＋新語700～950語程度＝3,300～4,050語程度」である。 「目標」の(1)に対応した言語活動である。 聞き取った情報そのものを伝え合うのではなく、聞き取った情報を整理し、それに対する<u>自分の考えなどをまとめて伝え合う活動</u>であることに注意する必要がある。 「目標」の(2)に対応した言語活動である。 読み取った情報そのものを伝え合うのではなく、読み取った情報を整理し、それに対する<u>自分の考えなどをまとめて伝え合う活動</u>であることに注意する必要がある。

エ 話すこと[やり取り]

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合う活動」と「やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。また、「社会的な話題」については、「賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動」と「やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、関連する話題を読んだり聞いたりすることで有用な語彙や文を必要に応じて示すことや、様々な表現や、答えに詰まったりしたときの対処方法や協力の仕方などを必要に応じて示すことが挙げられている。これらの支援を適宜行いながら、目標に合わせて活動の内容を発展させていくことが必要である。

オ 話すこと[発表]

【解説】「日常的な話題」と「社会的な話題」について、「情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、有用な語彙や表現、発話の仕方などを必要に応じて示すことや、内容についてブレインストーミングをしたり、アウトラインを書いたり、図表などを作成したりするための時間が必要に応じて確保されることが挙げられている。これらの支援を適宜行いながら、目標に合わせて活動の内容を発展させていくことが必要である。

カ 書くこと

【解説】「日常的な話題」と「社会的な話題」について、「情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動」と「書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、有用な語句や文、生徒が活用できる文章例が必要に応じて示されることが、書く活動に入る前にブレインストーミングをしたり、アウトラインを書いたりするための時間が必要に応じて確保されることが挙げられている。語彙や文構造などの活用の充実を図りながら、目標に合わせて活動の内容を発展させていくことが必要である。

② 言語の働きに関する事項

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。

内容の取扱い

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、総合的に指導するものとする。

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」での指導を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行い、更なる総合的な英語力の向上を図ることが必要である。

「目標」の(3)に対応した言語活動である。

事前の準備は簡単なメモやアウトラインの作成にとどめ、事前に書いた原稿を読むことに終始するやり取りにならないよう注意する必要がある。

効果的なフィードバックを行うことも重要である。

「目標」の(4)に対応した言語活動である。

伝える内容を詳細に表現するための語彙や文構造などの活用の充実を図りながら活動することが重要である。

「目標」の(5)に対応した言語活動である。

教師が生徒の書いた文章を取り上げ、よかった点などを全体で共有するなどして、「書くこと」の力や意欲の向上につながる適切で効果的なフィードバックをすることが重要である。



英語コミュニケーションⅢ

4単位

目 標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

ポイント解説	留意点
内 容 〔知識及び技能〕 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 【解説】 扱う言語材料としては、「英語コミュニケーションⅠ」と同様である。ただし、指導する語は「英語コミュニケーションⅡ」に示す語にさらに700～950語程度の新語を加えた語としている。700語は下限であるが、950語は上限とするという趣旨ではなく、目安である。また、文法事項については、「英語コミュニケーションⅡ」と同様、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを取り扱うこととしている。 〔思考力、判断力、表現力等〕 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 【解説】 「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 ア 「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」のそれぞれの(3)の①に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。 【解説】 「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」での学習内容を繰り返し活用することで、定着させることが求められている。 イ 聞くこと 【解説】 「日常的な話題」についてのインタビューやニュース、「社会的な話題」についての複数のニュースや講演などを聞き取り、内容を「把握する活動」と「聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。「複数のニュースや講演」としているのは、複数の題材を聞き取り、それらを多角的な視点から分析することなどが想定されている。 ウ 読むこと 【解説】 「日常的な話題」についての新聞記事や物語などを読んで内容を「把握する活動」と「読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」や、「社会的な話題」についての複数の論証文や記録文などを読んで内容を把握し「概要や要点、詳細をまとめる活動」と「まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動」が示されている。「複数の論証文や記録文」としているのは、複数の題材を読み取り、それらを多角的な視点から分析することなどが想定されている。 エ 話すこと〔やり取り〕 【解説】 「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させる活動」と「やり取りした内容を整	「英語コミュニケーションⅢ」で扱う単語数は「英語コミュニケーションⅡに示す語3,300～4,050語程度＋新語700～950語程度＝4,000～5,000語程度」である。 「目標」の(1)に対応した言語活動である。 聞き取る内容の理解だけにとどめるのではなく、自分の意見や感想を伝え合うことが重要である。 「目標」の(2)に対応した言語活動である。 読み取る内容の理解だけにとどめるのではなく、自分の意見や感想、解決策などを伝え合うことが重要である。 「目標」の(3)に対応した言語活動である。 課題を解決するためには、一定の

理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。また、「社会的な話題」については、「情報や考え、課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動」と「やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。

オ 話すこと[発表]

【解説】「日常的な話題」と「社会的な話題」について、「情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

カ 書くこと

【解説】「日常的な話題」と「社会的な話題」について、「情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動」と「書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。「社会的な話題」については、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、ある主張に対する賛否などの立場を明示した上で、その理由や根拠について述べる活動とされている。

② 言語の働きに関する事項

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。

内容の取扱い

「英語コミュニケーションⅡ」と同様に取り扱うものとする。

【解説】「英語コミュニケーションⅡ」と同様、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行い、更なる総合的な英語力の向上を図ることが必要である。

結論を導くために複雑な過程を伴うことが多いため、生徒の実態に応じて段階的な指導が必要である。

「目標」の(4)に対応した言語活動である。

適切な発表の形態や内容の構成の仕方、語彙や表現等の言語材料などについて、発表例を示しながら指導することが考えられる。

「目標」の(5)に対応した言語活動である。



論理・表現 I

2単位

目 標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域（以下この節において「三つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。 (1) 話すこと[やり取り] ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。 (2) 話すこと[発表] ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3) 書くこと ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
-----	--

ポイント解説	留意点
内 容 〔知識及び技能〕 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 ア 論理の構成や展開及び表現などに関する事項 (ア) 目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開 (イ) 情報や考えなどを効果的に伝える表現 【解説】 扱う言語材料は、「英語コミュニケーションⅠ」で示された項目に加え、上記のアの内容である。「話すこと」においては、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートではそれぞれに適した論理の構成や展開があり、目的や場面、状況に応じてそれらを活用できるよう指導する必要がある。また、「書くこと」においては、叙述文、	

説明文、論証文などの文体を、目的や場面、状況に応じて適切に活用できるように指導する必要がある。

語や文法事項については、「論理・表現Ⅰ」における三つの領域別の目標を達成する上で必要なものを適宜取り扱うこととする。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

【解説】 言語活動の中で英語で表現することを通して身に付けることとして、アとイの2点が挙げられている。アは、聞いたり読んだりする受容面での活動を受け、「話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること」である。イは、情報や考えを一方向的に伝えるのではなく、「情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと」であり、互いの理解を深められるようにしていくことが重要であると述べている。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ア 話すこと〔やり取り〕

【解説】 「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりする活動」と「やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「優れている点や改善すべき点を話して伝え合ったり、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動」と「やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、やり取りを継続させるための表現や、相手に確認する表現、やり取りの具体的なモデルを十分に示すことなどが挙げられている。

イ 話すこと〔発表〕

【解説】 「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝える活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える短いスピーチやプレゼンテーションをする活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

本活動における支援としては、モデルを示しながら、使用する表現や話の構成、論理の展開などを学べるようにすることや、メモやアウトライン及び原稿を用意するための時間が十分確保されることが挙げられている。

ウ 書くこと

【解説】 「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動」と「書いた内容を読み

三領域の「目標」のそれぞれに対応した言語活動の例が示された。

「目標」の(1)に対応した言語活動である。

生徒へのフィードバックについては、指摘する事項が生徒の英語の間違ひの訂正に偏らないように留意しながら、効果的に行うことが大切である。

インフォメーション・ギャップがある状況で活動を行うことも重要である。

「目標」の(2)に対応した言語活動である。

発表後に、生徒同士が、内容や発表の仕方について感想や意見を伝え合うことも効果的である。

プレゼンテーションを行う際は、発表をより分かりやすくするために、写真や実物、ポスターやスライド、タブレット端末などの視覚的な補助を活用することも考えられる。

「目標」の(3)に対応した言語活動である。

「段落を書いて伝える」とは、一つ

合い、**質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動**」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「意見や主張などを適切な理由や根拠とともに**段落を書いて伝える活動**」と「書いた内容を読み合い、**質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動**」が示されている。

本活動における支援は、「英語コミュニケーションⅠ」の言語活動の「書くこと」における支援と同様である。

② 言語の働きに関する事項

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。

内容の取扱い

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導するものとする。

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」での指導を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行い、論理的な思考力、判断力、表現力等の育成を図ることが必要である。

の段落で書いて伝える活動を指す。

その際、必要に応じて複数の段落で書くことも考えられる。

また、生活の中で使っている ICT 機器などを使って多様な文を書く活動も考えられる。



論理・表現Ⅱ

2単位

目 標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと[やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと[発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

ポイント解説	留意点
内 容 【知識及び技能】 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 【解説】「論理・表現Ⅰ」に示された事項と同様である。 【思考力、判断力、表現力等】 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 【解説】「論理・表現Ⅰ」に示された事項と同様である。 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項	

① 言語活動に関する事項

ア 「論理・表現Ⅰ」の(3)の①に示す言語活動のうち、「論理・表現Ⅰ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

【解説】「論理・表現Ⅰ」での学習内容を繰り返し活用することで、定着させることが求められている。

イ 話すこと[やり取り]

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、自分自身の状況や要望を伝え、相手の意向を把握しながら交渉したりする活動」と「やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「課題を明確に説明し、その解決策を提案し合ったり、意見や主張、課題の解決策などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動」と「やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。

本活動における支援は、「英語コミュニケーションⅡ」の言語活動の「話すこと[やり取り]」における支援と同様である。

ウ 話すこと[発表]

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「意見や主張などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝えるスピーチやプレゼンテーションをする活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

本活動における支援は、「英語コミュニケーションⅡ」の言語活動の「話すこと[発表]」における支援と同様である。

エ 書くこと

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動」と「書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動」と「書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

本活動における支援は、「英語コミュニケーションⅡ」の言語活動の「書くこと」における支援と同様である。

② 言語の働きに関する事項

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。

内容の取扱い

「論理・表現Ⅰ」と同様に取り扱うものとする。

「目標」の(1)に対応した言語活動である。

ディベートやディスカッションでは、「論理・表現Ⅰ」での、優れている点、改善すべき点を簡潔に述べ合う段階から、「何が課題となっているのか」、「最も有効な解決策は何か」などの更に詳しい内容について述べ合う段階となる。

「目標」の(2)に対応した言語活動である。

スピーチやプレゼンテーションでは、「論理・表現Ⅰ」を発展させ、ある程度まとまりのある長さで行うことが考えられる。

「目標」の(3)に対応した言語活動である。

「論理・表現Ⅰ」で扱った一つの段落の文章を書く段階から、複数の段落をもつ文章を書く段階になるため、主張をどのように展開するか、主張を支持する理由や根拠が適切か、主張に一貫性があるかなど、論理の構成や展開について指導することも大切である。



論理・表現Ⅲ

2単位

目 標 英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと[やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと[発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

ポイント解説	留意点
内 容 〔知識及び技能〕 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 【解説】「論理・表現Ⅰ」に示された事項と同様である。 〔思考力、判断力、表現力等〕 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合っ	

たりすることに関する事項

【解説】「論理・表現Ⅰ」に示された事項と同様である。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ア 「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」のそれぞれの(3)の①に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

【解説】「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」での学習内容を繰り返し活用することで、定着させることが求められている。

イ 話すこと[やり取り]

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動」と「やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「質疑応答をしたり、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動」と「やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを、整理して発表したり、文章を書いたりする活動」が示されている。

ウ 話すこと[発表]

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動」と「発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

エ 書くこと

【解説】「日常的な話題」については、「情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動」と「書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。また、「日常的な話題や社会的な話題」については、「意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動」と「書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動」が示されている。

② 言語の働きに関する事項

【解説】「英語コミュニケーションⅠ」に示された事項と同様である。

内容の取扱い

「論理・表現Ⅰ」と同様に取り扱うものとする。

「目標」の(1)に対応した言語活動である。

ディベートに当たっては、事前に論題を議論するために必要な知識を十分得たり、マイクロ・ディベートなどの簡易なディベートを何度も経験したりするなど、段階的な指導が求められる。

「目標」の(2)に対応した言語活動である。

「目標」の(3)に対応した言語活動である。

主張を述べる論証文のような文章では、より説得力のある文章にするために、主張を支える根拠として情報を効果的に引用することを指導することも必要である。



各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成について

- ・「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりの中で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。
- ・五つの領域を総合的に育成する「英語コミュニケーションⅠ」が必修科目として設定されている。「英語コミュニケーションⅡ」は「英語コミュニケーションⅠ」を、「英語コミュニケーションⅢ」は「英語コミュニケーションⅡ」を履修した後に履修させることを原則とすること。また、「論理・表現Ⅱ」は「論理・表現Ⅰ」を、「論理・表現Ⅲ」は「論理・表現Ⅱ」を履修した後に履修させることを原則とすること。なお、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」との並行履修が可能である。
- ・言語活動を行う際には、既習の言語材料を用いて、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し活用することで定着を図ることが重要である。
- ・生徒が授業の中で英語に触れる機会を最大限に確保するとともに、授業全体を英語を使った実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。
- ・言語活動などにおいて国語科と連携を図ることで、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるようにすることが必要である。また、地理歴史科や理科で学習した内容と関連する話題を取り上げるなどの工夫も求められる。
- ・障害のある生徒などの指導に当たっては、個々の生徒の困難さに応じて指導内容や指導方法を工夫する必要がある。
- ・ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得て、生徒が生きた英語に触れる機会を充実させることが重要である。

2 内容の取扱いについて

- ・言語材料の指導に当たっては、単に英語を日本語に置き換えさせるなどの指導にならないよう、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることで、実際に活用できる技能が身に付くよう指導することが必要である。
- ・音声指導に当たっては、発音表記を用いて指導することもできるが、発音表記そのものの詳細な指導に偏りすぎないように配慮する必要がある。
- ・文法事項の指導に当たっては、過度に文法的な正確さのみを求めたり、用語や用法の区別などが中心となったりしないよう配慮し、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、目的や場面、状況などを設定し、効果的な指導を行うことが重要である。
- ・現代の標準的な英語による指導を行うこと。ただし、現代の英語は、語彙、綴り、発音、文法などに多様性があることに気付かせるよう配慮する必要がある。
- ・中学校で身に付けた辞書の使い方を基礎として、自分の言語知識を駆使してコミュニケーションを行っていく中で、必要に応じて辞書を活用する能力を身に付けさせることが求められる。
- ・言語活動に当たっては、目的に応じてペア・ワークやグループ・ワークなど様々な学習形態を活用し、相互理解を深められるような題材や活動の在り方を工夫していくことが求められる。
- ・生徒の興味・関心をより高めるために視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用するとともに、キーボードを使った英文の入力などの活動を効果的に取り入れていくことが必要である。
- ・各単元や各時間の指導を行う際に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示す必要がある。

3 教材について

- ・教材は、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために適切なものを選定する必要がある。ある単元において、どの領域のどの目標に焦点を当てて、どのような言語活動を行い、こういった言語材料を活用するのかを明示することが求められる。文法事項などを中心とした構成とならないように十分に留意する。
- ・題材は、世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、適切なものを効果的に取り上げることとする。題材の選択に関する観点としては、①世界の様々な人の多様な価値観について知ることができるもの、②日本の伝統文化や、英語の背景にある文化について理解を深められるもの、③日本や世界の各地で起こっていることや話題になっていることについて知り、国際理解を深め、国際協調の精神を養うのに役立つもの、④人間、社会、自然などについて考えを深められるもの、の4つが挙げられている。

● 新課程と現行課程における各科目総語数の比較

新課程		現行課程	
小学校	600～700語程度の語	小学校	
中学校	小学校で学習した語（600～700語）に1,600～1,800語程度の新語を加えた語 ⇒合計2,200～2,500語程度	中学校	1,200語程度の語
英語 コミュニケーションⅠ	小・中学校で学習した語（2,200～2,500語）に400～600語程度の新語を加えた語 ⇒合計2,600～3,100語程度	コミュニケーション 英語Ⅰ	中学校で学習した語（1,200語）に400語程度の新語を加えた語 ⇒合計1,600語程度
英語 コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠに示す語（2,600～3,100語）に700～950語程度の新語を加えた語 ⇒合計3,300～4,050語程度	コミュニケーション 英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅰに示す語（1,600語）に700語程度の新語を加えた語 ⇒合計2,300語程度
英語 コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅡに示す語（3,300～4,050語）に700～950語程度の新語を加えた語 ⇒合計4,000～5,000語程度	コミュニケーション 英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅱに示す語（2,300語）に700語程度の新語を加えた語 ⇒合計3,000語程度
論理・表現Ⅰ， 論理・表現Ⅱ， 論理・表現Ⅲ	三つの領域別の目標を達成する上で必要な語	コミュニケーション 英語基礎， 英語表現Ⅰ， 英語表現Ⅱ， 英語会話	生徒の学習負担を踏まえた適切な語



高等学校 新教育課程「カリキュラムモデル案」

(下線は必履修科目。斜字は学校設定科目。普通科は週32単位時間、実業校は31単位時間で想定。○囲み数字は単位数)

2018年 8 月

第一学習社モデル案作成

モデル案A 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語②	言語文化③	歴史総合②	数学Ⅰ③	数学A②	物理基礎②	生物基礎②	体育③	保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ④	論理・表現Ⅰ②	情報Ⅰ②	総合的な探究の時間①	LHR①																	
2年 文系	論理国語②	古典探究②	文学国語②	地理総合②	公共②	日本史探究② 世界史探究②	数学Ⅱ④	数学B②	化学基礎②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	家庭基礎②	LHR①																	
2年 理系	論理国語②	古典探究②	地理総合②	公共②	数学Ⅱ④	数学B②	化学基礎②	化学②	物理② 生物②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	家庭基礎②	LHR①																	
3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④	政治・経済②	数学研究③	化学研究②	生物研究②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	文系選択科目②	総合的な探究の時間①	LHR①																		
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究④	数学Ⅲ④	数学C②	物理④ 生物④	化学④	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①																				

ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を1科目、理科を2科目配置、2年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を1科目配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。
3. 必履修科目の「英語コミュニケーションⅠ」を1年生で4単位、「情報Ⅰ」を1年生に、「家庭基礎」を2年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と3年次履修の計2単位とした。

モデル案B 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語②	言語文化②	地理総合②	公共②	数学Ⅰ④	数学A②	生物基礎②	体育②	保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③	論理・表現Ⅰ②	家庭基礎②	情報Ⅰ②	総合的な探究の時間①	LHR①																
2年 文系	論理国語②	古典探究②	文学国語②	歴史総合②	日本史探究② 世界史探究②	数学Ⅱ④	数学B② 国語表現②	化学基礎②	地学基礎②	体育③	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	総合的な探究の時間①	LHR①																	
2年 理系	論理国語②	古典探究②	歴史総合②	数学Ⅱ④	数学B②	物理基礎③	化学基礎②	化学③	体育③	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	総合的な探究の時間①	LHR①																		
3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	国語表現② 数学研究②	日本史探究⑤ 世界史探究⑤ 地理探究⑤	政治・経済② 倫理②	政治・経済② 倫理② 理科研究②	化学④ 生物④ 地学④	英語研究②	文系選択科目②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①																	
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究④ 国語研究②	数学Ⅲ④	数学C②	物理⑤ 生物⑤	化学③	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①																				

ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を1科目配置、2年生で必履修の地歴公民を1科目、理科2科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」「言語文化」を2単位ずつ、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。「国語表現」は文系2・3年生で選択。
3. 必履修科目の「数学Ⅰ」を1年生で4単位履修する。
4. 必履修科目の「家庭基礎」「情報Ⅰ」とも1年生に配置した。

モデル案C 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の 国語②		言語文 化②		地理総 合②		公共②		数学Ⅰ③		数学A ②		化学基 礎②		生物基 礎②		体育③				保健 ①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②		英語コミュ ニケーショ ンⅠ③		論理・ 表現Ⅰ ②		情報Ⅰ ②		総合的な 探究の時 間①	LHR ①	
2年 文系	論理国 語②		古典探 究②		文学国 語②		歴史総合③		数学Ⅱ④		数学B ②	国語表 現②	地学基 礎②	化学② 生物②		体育②		保健 ①		英語コミュ ニケーションⅡ④		論理・ 表現Ⅱ ②		家庭基 礎②		総合的な 探究の時 間①	LHR ①					
2年 理系	論理国 語②		古典探 究②		歴史総 合②		数学Ⅱ⑤		数学B ②		物理基 礎②		物理②	化学② 生物②		体育②		保健 ①		英語コミュ ニケーションⅡ④		論理・ 表現Ⅱ ②		家庭基 礎②		総合的な 探究の時 間①	LHR ①					

3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	国語表現②	日本史探究⑤		政治・経済③		生物研究②	化学研究②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	文系選択科目②	LHR①
				数学研究②	世界史探究⑤		倫理③	地学研究②							
					地理探究⑤										
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究④		数学Ⅲ⑤		数学C②	物理④	化学④		体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	LHR①	
									生物④						

ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を2科目配置、2年生で必履修の地歴公民1科目(「歴史総合」を3単位とした)、理科1科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」「言語文化」を2単位ずつ、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。「国語表現」は文系2・3年生で選択。
3. 必履修科目の「情報Ⅰ」を1年生に、「家庭基礎」を2年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と2年次履修の計2単位とした。

モデル案D 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の 国語②		言語文化③		歴史総合③			数学Ⅰ③			数学A ②		化学基 礎②		体育③			保健 ①		音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②		英語コミュ ニケーショ ンⅠ③		論理・ 表現Ⅰ ②		家庭基 礎②		情報Ⅰ ②		総合的な 探究の時 間①		LHR ①
2年 文系	論理国 語②		古典探究③			文学国 語②		地理総 合②		公共②		日本史探究 ③ 世界史探究 ③		数学Ⅱ④			生物基 礎②		地学基 礎②		体育②		保健 ①		英語コミュニ ケーションⅡ④		論理・ 表現Ⅱ ②		LHR ①			
2年 理系	論理国 語②		古典探 究②		地理総 合②		公共②		数学Ⅱ④			数学B ②		物理基 礎②		生物基 礎②		物理② 生物②		化学②		体育②		保健 ①		英語コミュニ ケーションⅡ④		論理・ 表現Ⅱ ②		LHR ①		
3年 文系	論理国 語②		古典探究③			文学国 語②		日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④		政治・ 経済② 倫理② 数学研 究②		英語研 究② 化学④ 生物④ 地学④		国語研 究②		体育③		英語コミュニ ケーションⅢ④		論理・ 表現Ⅲ ②		政治・ 経済② 倫理② 理科研 究②		文系選 択科目 ②		総合的な 探究の時 間①		LHR ①				
3年 理系	論理国 語②		古典探 究②		地理探究③ 国語研究③ 英語研究③		数学Ⅲ⑤					数学C③			物理③ 生物③		化学③		体育③		英語コミュニ ケーションⅢ④		理系選 択科目 ②		総合的な 探究の時 間①		LHR ①					

ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を1科目(「歴史総合」を3単位とした)、理科を1科目配置、2年生で必履修の地歴公民を2科目、理科2科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し(単位数異なる)、文系は加えて「文学国語」も履修する。
3. 必履修科目の「家庭基礎」「情報Ⅰ」とも1年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と3年次履修の計2単位とした。

モデル案E 全日制実業校の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	言語文化③			歴史総合②		数学Ⅰ③			科学と人間生活②		体育②		保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②		英語コミュニケーションⅠ③		家庭総合②		実業科目⑩											LHR①
2年	現代の国語②		文学国語②		公共②		数学A②		生物基礎②		体育②		保健①	英語コミュニケーションⅡ④			家庭総合②		実業科目⑪											LHR①	
3年	文学国語②		地理総合②		国語研究② 政治・経済②		日本史探究③			体育③		論理・表現Ⅰ②		国語研究② 数学研究②		社会研究② 理科研究②		実業科目⑫											LHR①		

ポイント

- 主として商業系高校を想定した。
- 必修修の地歴公民3科目は、1・2・3年生で2単位ずつ履修。理科は1年生で「科学と人間生活」、2年生で「生物基礎」を履修し、必修修科目をクリアとする。
- 国語は1年生で「言語文化」を3単位、2年生で「現代の国語」を2単位で必修修をクリアし、2・3年生で「文学国語」を2単位ずつ履修する。
- 必修修の「家庭総合」(4単位)を1・2年生で2単位ずつ分割して履修する。
- 「総合的な探究の時間」は、実業科目の中の「課題研究等」の授業履修に置き換えることを前提とする。

モデル案F 全日制実業校の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1年	現代の 国語②		地理総 合②		数学Ⅰ③		科学と 人間生 活②		体育③			保 健 ①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュ ニケーショ ンⅠ③		実業科目⑫															LHR ①	
2年	言語文化③		公共②		数学Ⅱ④			物理基 礎② (生物基 礎②)		体育②		保 健 ①	英語コミュ ニケーションⅡ ②		実業科目⑭															LHR ①		
3年	国語研 究②		歴史総 合②		数学A ②		数学B ② 学校設定 科目②		理科学 研究② 学校設定 科目②		体育②		英語コミュ ニケーションⅡ ②		家庭基 礎②		実業科目⑭															LHR ①

ポイント

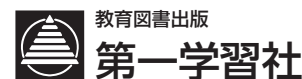
- 主として工業系・農業系高校を想定した。
- 必修修の地歴公民3科目は、1・2・3年生で2単位ずつ履修。理科は1年生で「科学と人間生活」、2年生で「物理基礎」(生物基礎)を履修し、必修修科目をクリアとする。
- 国語は1年生で「現代の国語」を2単位、2年生で「言語文化」を3単位で必修修をクリア。3年生で学校設定科目の「国語研究」を配置。
- 必修修の「家庭基礎」を3年生で履修する。
- 「総合的な探究の時間」は、実業科目の中の「課題研究等」の授業履修に置き換えることを前提とする。

文部科学省ホームページ 新学習指導要領
「高等学校学習指導要領解説」等を加工して作成。
(カリキュラムモデル案を除く。)

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm)
※本冊子の詳細な内容は、パソコン・スマートフォンでご確認下さい。
(別途通信費が必要です。)



新教育課程 高等学校 学習指導要領 ポイント解説 外国語



2018年9月20日発行

東京：〒102-0084 東京都千代田区二番町5番5号 ☎03-5276-2700
大阪：〒564-0052 吹田市広芝町8番24号 ☎06-6380-1391
広島：〒733-8521 広島市西区横川新町7番14号 ☎082-234-6800

札幌：☎011-811-1848 青森：☎017-742-4600 仙台：☎022-271-5313
新潟：☎025-290-6077 つくば：☎029-853-1080 東京：☎03-5803-2131
横浜：☎045-953-6191 金沢：☎076-291-5775 名古屋：☎052-769-1339
神戸：☎078-937-0255 広島：☎082-222-8565 福岡：☎092-771-1651
沖縄：☎098-896-0085